

執筆分担一覧 (掲載順・昭和五十五年二月一日現在)

大久保利謙 (元立教大学教授)	はじめに 第一編第一章第一節 第三節
金原左門 (中央大学教授)	総説 第三編第二章
今井庄次 (東京外国語大学教授)	第一編第一章第二節 第二編第四章第一節 第二節
山口修 (聖心女子大学教授)	第一編第一章第四節 第三章第一節 第三節 第四節 第三編第三章第一節 第四節
桜庭宏 (茨城県歴史館研究員)	第一編第二章 第二編第一章第一節
高橋昌郎 (清泉女子大学教授)	第一編第三章第二節 第二編第四章第三節
阿部恒久 (早稲田大学大学史編集所員)	第二編第一章第二節 第三節 第三編第三章第三節
大畑哲 (県立厚木高等学校教諭)	第二編第二章第一節 第五節
江村栄一 (法政大学教授)	第二編第二章第二節 第三節 第四節 第六節
内田修道 (元横浜国立大学講師)	第二編第三章
草間俊郎 (県立栄養短期大学教授)	第二編第四章第四節 第三編第三章第二節
斉藤秀夫 (横浜市立大学講師)	第三編第一章

<p>1909 (明治42)</p>	<p>軍工廠従業員、横廠工友会を結成。 9-5 横浜の欧文活版工、横浜欧友会結成。 -23 横浜鉄道東神奈川一八王子間開通。 一小田原町立小田原高等学女学校開校。 4- 足柄上郡に郡立農林学校開校。 7-1 横浜開港50年祭挙行。</p>	<p>10-13 戊申詔書発布。 5-6 新聞紙法公布。</p>
<p>1910 (//43)</p>	<p>1-23 逗子開成中学の生徒ら12人、七里ヶ浜で遭難溺死。 4- 神奈川県地方改良会設置。 6-1 幸徳秋水、大逆事件の中心人物として湯河原で逮捕。 7-17 浦賀船渠職工同盟罷業。 8-1 豪雨により県下各地に被害。</p>	<p>5-25 大逆事件の検挙開始。 8-22 韓国併合。 11-3 帝国在郷軍人会発会。 -15 帝国農会創立。</p>
<p>1912 (明治45 大正1)</p>	<p>1-12 大島久満次、知事に就任。 4-1 神奈川県立工業学校開校。 一神奈川県と東京府との境界を多摩川の中心とする。 6-8 日本鋼管株式会社設立。 11-12 横浜港外で海軍特別大演習 観艦式 挙行。</p>	<p>7-30 大正と改元。 8-1 友愛会結成。</p>
<p>1913 (大正2)</p>	<p>2- 鶴見埋立組合設立。 6-7 友愛会川崎支部結成。</p>	<p>2-11 憲政擁護運動で桂内閣総辞職。</p>
<p>1914 (//3)</p>	<p>2-3 横浜商工業組合連合会の営業税全廃運動始まる。 4-28 石原健三、知事に就任。 9-2 横浜で全国蚕業糸同業者協議会開催、操業短縮を決議。</p>	<p>8-23 ドイツに宣戦布告し第一次世界大戦に参加。</p>
<p>1915 (//4)</p>	<p>4-26 友愛会横浜支部・横浜海員支部結成。 8-12 有吉忠一、知事に就任。</p>	<p>1-7 対華21か条の要求。</p>
<p>1916 (//5)</p>	<p>4-1 横須賀海軍航空隊設置。 8-15 横浜船渠職工1200人不当解雇反対争議。 9-12 工場取締規則制定。</p>	<p>9-1 工場法施行。 10-10 憲政会結成。</p>

(明治30)	大工360人組合結成。 9-12 労働組合期成会横浜港座で演説会開催。 12-1 鉄工組合結成に横浜鉄工185人参加。 2-21 小田原馬車鉄道株式会社設立。 5-15 『京浜新聞』創刊。	成。 10-1 金本位制施行。 12-1 鉄工組合結成。 10-18 社会主義研究会設立。
1898 (//31)	2- 神奈川県尋常中学校を神奈川県中学校と改称。 7-1 神奈川県、府県制・郡制施行。-17 外国人居留地撤去。	2- 中学校令改正,実業学校令,高等女学校令。 3-16府県制・郡制改正。 7-17 改正条約実施。
1899 (//32)	4-1 神奈川県中学校を神奈川県第一中学校と改称。 6-16 周布公平,知事に就任。 2-15 『横浜毎夕新聞』創刊。	3-10 治安警察法公布。 9-15 立憲政友会結成。 2-24 愛国婦人会結成。 5-18 社会民主党結成。 12-10田中正造,足尾鉛毒事件を天皇に直訴。 1-30 日英同盟協約調印。
1900 (//33)	4-28 神奈川県第二中学校を足柄下郡小田原に開校。 5-5 神奈川県高等女学校を横浜に開校。 4-13 県立第三中学校を厚木に開校。 9-23 横浜電気鉄道株式会社設立。-28 台風による高波で小田原海岸一帯大被害。	
1901 (//34)	10- 津久井郡に郡立蚕業学校開校。-30 横浜でペスト流行,市内の一部強制立退き焼払う。 11- 愛国婦人会神奈川県支部設立。-5 横須賀海軍造船廠を横須賀海軍工廠と改称。 12- 三浦郡奨義会結成。	3-27 専門学校令公布。 11-15 平民社結成,週刊『平民新聞』創刊。 2-10 日露戦争始まる。 4-1 煙草専売法公布。
1902 (//35)	2- 横浜奨義会婦人部結成。 3-9 横浜鉄道株式会社設立。 7-1 『横浜貿易新聞』と『横浜新報』とが合併し『貿易新報』と改称。-23 横浜平民社結成。 5- 『横須賀新聞』創刊。	
1903 (//36)	9-12 横浜で日露講和反対市民大会開催。一『相模中央新聞』創刊。 12-24 京浜電気鉄道開通。	9-5 日露講和条約調印。
1904 (//37)	4- 報徳会機関紙『斯民』創刊。 8- 湘南馬車鉄道二宮-秦野間開通。 12-3 『貿易新報』が『横浜貿易新報』と改題。 2-15 横須賀に市制施行。	1-14 日本平民党結党。 -28 日本社会党結党。 3-31 鉄道国有法公布。 2-4 足尾銅山暴動。
1905 (//38)	4- 神奈川県女子師範学校開校。一浦賀船渠職工500人の解雇を発表。 5- 子安村地先海面埋立で地元漁民反対運動。	3-21 小学校令改正,義務教育年限6年に延長。
1906 (//39)	4-14 神奈川県立第四中学校を横須賀に開校。 5-1 神奈川県立農業学校開校。-27 横須賀海	4-28ブラジル移民出発 6-22 赤旗事件。
1907 (//40)		
1908 (//41)		

	10-27 横浜の上下水道配水開始。 11- 神奈川県五郡有志らにより三大事件建白を行う。	会の自由・地租軽減・外交失策の挽回)。 -26 保安条例公布。
1888 (明治21)	1- 神奈川県教育会創立。一神奈川県会解散。 2- 横浜商法学校を横浜商業学校と改称。 6- 神奈川県通信所設立。 10-1 小田原馬車鉄道開通。	4-17市制・町村制公布。
1889 (〃22)	4-1 市制・町村制施行(横浜市誕生)。 6-16 横須賀線開通。 -21 横浜のお茶場女工400人賃下げ反対で工場閉鎖。一神奈川県倶楽部結成。 7-30 神奈川県倶楽部, 石坂昌孝・天野政立を総代として, 条約改正反対の建白を提出。 12-2 横浜婦人慈善会創立。 -26 浅田徳則, 知事に就任。	2-11 大日本帝国憲法発布。 7-1 東海道線全通。 12-24 内閣官制公布。
1890 (〃23)	2-1 『横浜貿易新聞』創刊。 11- 神奈川県会で娼娼決議。一国道修繕費, 三大川の治水費及び監獄費の国庫支弁とする建議案, 通常県会で可決。 12-16 東京一横浜市内及び両市間に電話交換を開始。	5-17府県制・郡制公布。 7-1第1回総選挙実施。 9-15 立憲自由党結成。 10-30 教育勅語発布。
1891 (〃24)	4-9 内海忠勝, 知事に就任, 一十全医院, 横浜市の経営となる。 6-5 横浜船渠会社設立許可。	5-11 天津事件。 9-1 上野一青森間鉄道全通。
1892 (〃25)	3- 横浜に石油タンク設置問題おこる。 4- 横浜市立商業学校開校。 7-15 横須賀海軍造船廠職工5,150人スト。 9-20 東京府知事, 三多摩郡の東京府編入を内務大臣に上申。	2- 第2回臨時総選挙で選挙干渉おこる。 11-6 東洋自由党結成。
1893 (〃26)	2-18 三多摩郡の東京府移管案を衆議院へ提出。 3-10 中野健明, 知事に就任。 4-1 西多摩・南多摩・北多摩の3郡を東京府へ移管。 -15 三多摩郡自由倶楽部結成。 5- 神奈川県同志会結成。	4-14集会及び政社法改正公布。
1894 (〃27)	1-22 葉山御用邸完成。 3- 横浜外人生糸屑糸商組合設立。	8-1 日清戦争始まる。
1895 (〃28)	2-29 横浜商業会議所設立。 10-4 立憲改進黨神奈川県支部規則できる。 11-29 神奈川県農会設立。	4-17 日清講和条約調印。
1897	6-18 神奈川県尋常中学校開校。 -5 県下の船	7-4 労働組合期成会結

1880 (明治13)	と改称。この月、小田原師範学校が廃止され、6郡共立の小田原中学校開校。 1-17 八王子に第15嚶鳴社設立。月末、三浦郡三崎町で国会開設の檄文発表。 2-23 横浜正金銀行設立。 6-8 神奈川県下相模国9郡23,555人による国会開設の建言を元老院受付ける。 11-21 神奈川県懇親会開催。一 顕猶社結成。	3-15 国会期成同盟結成。 4-5 集会条例制定。 -8 区町村会法制定。 6-15 備荒儲蓄法制定。
1881 (//14)	2-14 三府神奈川県区郡部会規則を定める。 8-5 大磯に湘南社結成。 11-3 融貫社結成。-8 沖守固、県令に就任。この年、五日市憲法草案が作成される。	10-2 自由党結成決議。 10-12 明治23年に国会開設の詔書出る。
1882 (//15)	1-25 愛甲郡に相愛社結成。 3-20 横浜商法学校開校。 12-23 県庁舎焼失。	4-16 立憲改進黨結党式。 5-群馬県会公娼全廃を決議。
1883 (//16)	8-20 南多摩郡自由党の組織確立。 10- 大住・洵綾郡81か村戸長ら地租延納上申書を県令に提出。 12-15 大住・洵綾2郡123か村総代164人、地租徴収期限延期建白書を元老院に提出。	7-2 官報第1号発行。 -31 教科採択の認可制施行。 11-28 鹿鳴館閉館。
1884 (//17)	5-15 露木事件、-27 弘法山騒動おこる。 7-30 御殿峠騒動おこる。 9-15 台風襲来、県下の農作物に被害。 11-19 武相困民党結成。一愛甲郡1町26か村民租税軽減哀願書を大蔵卿に提出。 12-15 東海鎮守府を横須賀に移し横須賀鎮守府と改称。	3-15 地租条例制定。 5-7 区町村会法改正。この月、群馬事件。 9- 加波山事件。 10-29 自由党解党。-31 秩父事件おこる。12-飯田事件・名古屋事件。
1885 (//18)	1-27 ハワイ向け第1回官約移民横浜出発。 4- 石坂昌孝ら南多摩郡有志の「国会短縮建白」を元老院に提出。 8- 大磯に海水浴場開場。 9- 高座郡上溝にバプテスト教会設立。	11-23 自由党大阪事件。 12-22 内閣制度制定。
1886 (//19)	2-13 横浜で基督教青年会結成。 3-小田原町有志元老院に「足柄県再興建白書」を提出。 5- 足柄下郡立小田原英語学校開校。-1『東京横浜毎日新聞』が『毎日新聞』と改称。	4-10 学校令公布。 7-20 地方官官制公布。
1887 (//20)	7-19 県令沖守固、知事に就任。 3-1 『神奈川県公報』発行。 7-11 横浜一國府津間鉄道開通。	12-15 2府18県の代表、三大事件建白（言論集

1874 (明治7)	<p>海岸通りにグランド・ホテル開業。 1-15 中島信行、県令に就任。 5- 小学校教員養成所を横浜に開設。 6-15 区番組制を廃止し大区・小区制実施。 一 地租改正取調総代人制度設置。 8- 富岡製糸場へ小田原町から伝習工女派遣。 一 神奈川—小田原間に郵便馬車が走る。 9-21 番外啓行堂を神奈川県師範学校と改称。</p>	1-17板垣退助ら民選議 院設立建白書を提出。
1875 (“8)	<p>1-1 横浜郵便局外国郵便開業。 3-5 横須賀造船所で軍艦「清輝」進水。 5-4 神奈川県県会議事章程を定める。 11-1 仮名垣魯文『仮名読新聞』横浜で創刊。 12-25 民費予算取入規則を定める。</p>	<p>3-24 地租改正事務局 設置。 6-20 第1回地方官会 議開会。 -28讒謗律・新 聞紙条例を定める。 3-28 魔刀令を定める。</p>
1876 (“9)	<p>3-28 野村靖、権令に就任。 4-18 足柄県廃止、伊豆国を除き相模国7郡神 奈川県に編入。</p>	8-5 金禄公債証書発行 条例を定める。
1877 (“10)	<p>7- 師範講習所を師範学校と改称。 9-11 東海鎮守府を横須賀に設置。 11-7 学区取締事務章程を定める。 7-31 横浜瓦斯局事件おきる。 9- 横浜を中心にコレラ流行。 10- 横須賀に東海水兵本営設置。</p>	<p>1-4 地租軽減の詔書出 る。 6-1 万国郵便連合に加 盟。この年、西南戦争。</p>
1878 (“11)	<p>2-14 県会議事規則を定める。 5-30 瀬谷村ほか数か村地租改正不服を野村 権令に上申。この月、石坂昌孝ら南多摩郡に責 善会結成。 7-25 野村靖、県令に就任。 10-13 横浜に鶯鳴社結成。 -26 真土村騒動お きる。 11-18 郡・区の編制を公布(郡役所設置)小田 原支庁廃止。 -21 真土村騒動の被告に対し、大 住・淘綾・愛甲3郡136か村15,000人の助命 嘆願書が出される。</p>	<p>4-10 第2回地方官会 議開会。 7-22 郡区町村編制法・ 府県会規則・地方税規 則(地方三新法)制定。</p>
1879 (“12)	<p>2-5 県会議員選挙区別定数を定める。 3-11 横浜町会所で最初の県会開会。 5-15 横浜師範学校を神奈川県師範学校と改 称。 6-13 神奈川県町村会規則施行。 11-18 『横浜毎日新聞』が『東京横浜毎日新聞』</p>	<p>1-25 『朝日新聞』創刊。 9-29 教育令制定。 11-5 地方税規則改正。 この年、各府県会開会。</p>

年 表

- 1 本年表は、1868—1916年までの事項を県内と国内に区分して収めた。
- 2 収録事項の年月日は、西暦を基準とし、1872(明治5)年までは陰暦によった。

西 暦 (年 号)	県 内	国 内
1868 (慶応4 明治1)	3-19 東久世通禱, 横浜裁判所総督に就任. 閏4-11 『横浜新報もしほ草』 創刊. 4-20 横浜裁判所を神奈川県裁判所と改称. 5-12 箱根戦争勃発. 6-17 神奈川県裁判所を神奈川県に改め, 東久世通禱, 知事に就任. 9-21 神奈川県を神奈川県と改称し, 寺島宗則, 知事に就任.(神奈川県成立)	1-3 戊辰戦争おこる. 3-14 五箇条の誓文.
1869 (明治2)	1-1 観音崎灯台点灯. -31 箱根関所廃止. 4-17 井関盛長, 神奈川県知事に就任. 6-19 大久保忠良, 小田原藩知事に就任. -23 米倉昌言, 六浦藩知事に, 大久保教義, 荻野山中藩知事に就任. 12-25 横浜—東京間に電信開通.	7-17 江戸を東京と改称. 9-8 明治と改元.
1870 (“3)	3-19 横浜—東京間の鉄道建設工事開始. 閏10-14 洋式劇場「ゲーター座」横浜に開場. 12-8 『横浜毎日新聞』 創刊.	9-10 藩制改革を布告. 10-13 平民に苗字使用を許可.
1871 (“4)	4-9 横須賀製鉄所を横須賀造船所と改称. 7-14 廃藩置県により六浦県・荻野山中県・小田原県・葦山県を設置. 8-12 陸奥宗光, 神奈川県知事に就任. 11-14 新置改県で神奈川・六浦・葦山・小田原・荻野山中県を廃止し神奈川県・足柄県を設置.	4-4 戸籍法を定める. 7-14 廃藩置県の詔書出る. 8-28 「穢多非人」の称廃止.
1872 (“5)	2-2 プロテスタント教会横浜居留地に設立. 6-29 横浜入港中のペルー国船マリア・ルス号から苦力が脱出(マリア・ルス号事件). 7-14 大江卓, 権令に就任. -17 権令大江卓, 県下の人身売買営業を禁止. -29 横浜瓦斯局, 県庁と本町通り間にガス灯点灯. 11- 『足柄新聞』 創刊.	8-28 府県官制定める. 2-15 土地永代売買の禁を解く. 4-9 庄屋・名主など廃し戸長を設置. 8-3 学制を頒布. 11-9 太陽暦を採用する. -28 徴兵の詔書.
1873 (“6)	2- 神奈川県学則を定める. 3-9 神奈川県は横浜の野毛山学校を徴兵署にあて徴兵検査を行う. 5-13 区画改正実施(20区185番組に分画). 9-1 神奈川県職制事務章程を定める. -29 県下区長戸長事務取扱心得書を定める. —横浜	1-10 徴兵令布告. 7-28 地租改正条例布告. 11-10 内務省設置.

度量衡換算表

長 さ

単 位	センチメートル	メートル	キ ロメートル	尺	間	町	里
1 センチメートル	1	0.01	0.00001	0.033	0.0055		
1 メートル	100	1	0.001	3.3	0.55	0.0092	0.00025
1 キロメートル	100000	1000	1	3300	550	9.1667	0.25463
1 尺	30.303	0.30303	0.00030	1	0.16667		
1 間	181.82	1.8182	0.00182	6	1	0.01667	
1 町	10909	109.09	0.10909	360	60	1	0.02778
1 里	392730	3927.3	3.9273	12960	2160	36	1

面 積

単 位	平方メートル	アール	ヘクタール	平方キロメートル	平方ヤード	坪・歩	反
1 平方メートル	1	0.01	0.0001	0.000001	1.1960	0.30250	0.001008
1 アール	100	1	0.01	0.0001	119.60	30.250	0.10083
1 ヘクタール	10000	100	1	0.01	11960	3025.0	10.083
1 平方キロメートル	1000000	10000	100	1	—	302500	1008.3
1 平方ヤード	0.83613	0.00836	0.000084	—	1	0.25293	—
1 坪・1歩	3.3058	0.03305	0.000331	0.000003	3.9537	1	0.00333
1 反	991.74	9.9174	0.099174	0.000992	1186.1	300	1

容 積・体 積

単 位	立方センチメートル	リットル	立 方メートル	ガロン	升	斗	石
1 立方センチメートル	1	0.001	0.000001	—	—	—	—
1 リットル	1000	1	0.001	0.26417	0.55435	0.055435	—
1 立方メートル	1000000	1000	1	264.17	554.35	55.435	5.5435
1 ガロン	3785.4	3.7854	0.00378	1	2.0985	0.20985	0.02098
1 升	1803.9	1.8039	—	0.47654	1	0.1	0.01
1 斗	18039	18.039	0.01803	4.7654	10	1	0.1
1 石	180390	180.39	0.18039	47.654	100	10	1

質 量

単 位	グラム	キログラム	ト ン	ポンド	匁	斤	貫
1 グラム	1	0.001	—	0.00220	0.26667	0.00167	—
1 キログラム	1000	1	0.001	2.2046	266.67	1.6667	0.26667
1 トン	1000000	1000	1	2204.6	—	1666.7	266.67
1 ポンド	453.6	0.4536	0.000454	1	120.96	0.75600	0.12096
1 匁	3.75	—	—	0.00827	1	—	—
1 斤	600	0.6	0.0006	1.3228	160	1	0.16
1 貫	3750	3.75	0.00375	8.2672	1000	6.25	1

市町村名	旧町村数	旧郡名	旧 町 村 名	市町村名	旧町村数	旧郡名	旧 町 村 名
			谷津 板橋 風祭 水野尾 入生田 後河原 早川 石橋 米神 根府川 江ノ浦 山王原 綱一色 今井 中島 町田 池戸新田 荻窪 池上 堤新田 井細田 久野 多古 穴部 穴部新田 府川 北ノ久保 飯田岡 清水新田 新屋 柳新田 小台 成田 堀之内 蓮正寺 桑原 西大友 東大友 永塚 延清 千代 高田 別堀 中里 下堀 矢作 飯泉 鴨宮 上新田 中新田 下新田 酒匂 小八幡 國府津 前川 羽根尾 中村原 小船 上町 沼代 小竹 曾我谷津 曾我岸 曾我原 曾我別所 田嶋 中曾根	座間市	5	高 座	座間宿 座間入谷 新田宿 四ッ谷 栗原
			小和田 蓼沼 赤羽根 窪田 茅ヶ崎 下町屋 松尾 柳島 中島 萩園 浜之野 矢畑 円藏 西久保 高田 甘沼 堀 香川 下寺尾 行谷 芥沢 平太夫新田 今宿	南足柄市	26	足柄上	狩野 中沼 三竹山 沼田 岩原 塚原 駒形新宿 和田河原 旗地所 竹松 班目 千津島 榎下 怒田 雨坪 飯沢 嶺山 関本 福泉 弘西寺 苅野岩 苅野一色 矢倉沢 内山 小市 平山
茅ヶ崎市	23	高 座		業山町	6	三 浦	堀内 一色 長柄 上山口 下山口 木古庭
			新戸 磯部 上鶴間 駒野森 瀧野辺 上矢部 上矢部新田 上相原 橋本 小山 上九沢 下九沢 大島 上溝 下溝 当麻 田名 清兵衛新田	寒川町	11	高 座	一之宮 田端 上大曲 下大曲 瀬山 岡山 岡田 大藪 小谷 小動 倉見
逗子市	8	三 浦		綾瀬市	8	高 座	吉岡 上土棚 本蓼川 蓼川 深谷 寺尾 早川 小島
相模原市	18	高 座		愛川町	8	高 座	吉岡 上土棚 本蓼川 蓼川 深谷 寺尾 三増 半原
			浦 本和田 和田赤羽根 和田竹之下 入江新田 三戸 上宮田 下宮田 小網代 諸磯 三崎 二町谷 中之町 東原 原 富川 向ヶ崎 城ヶ島 松崎 毘沙門 金田 菊名 高円坊	清川村	2	愛 甲	煤ヶ谷 宮ヶ瀬
三浦市	23	三 浦		大磯町	11	陶 綾	國府本郷 國府新宿 寺坂 生沢 虫黒 黒岩 西ノ久保 大磯宿 東小磯 西小磯 高麗寺
			八沢 富浦 柳川 三廻部	二宮町	5	陶 綾	二ノ宮 川勾 山西 一色 中里
秦野市	32	足柄上		中井町	16	大 住	五分一
		大 住	上大槻 下大槻 南矢名 北矢名 落幡 曾屋 裏毛 小裏毛 寺山 名古木 落合 東田原 西田原 羽根 善地 横野 戸川 三屋 堀川 堀斎藤 堀沼城 堀山下 千村 浜沢 平沢 今泉 尾尻 大竹	大井町	10	足柄上	古怒田 鴨沢 雑色 松本 比奈久保 遠藤 北田 田中 久所 半分形 藤沢 井之口 境 境別所 岩倉
厚木市	41	大 住		松田町	10	足柄上	上大井 西大井 金手 金子 山田 赤田 高尾 新斎 柳 藤窪
		愛 甲	愛甲 船子 思名 厚木 戸室 温水 長谷 岡津古久 小野 愛名 上古沢 下古沢 林 妻田 及川 関口 上依智 中依智 下依智 山際 金田 三田 上萩野 中萩野 下萩野 飯山 猿ヶ島 柳沢 川入 七沢 川入五ヶ村新田 山際村新田 原地新田 尼寺原新田	山北町	13	足柄上	川村向原 川村岸 川村山北 菅瀬川 都夫良野 湯船 川西 山市場 神尾 世附 中川 玄倉 谷ヶ
大和市	7	高 座		開成町	8	足柄上	吉田島 牛島 宮ノ台 中之名 円通寺 延沢 金井島 岡野
伊勢原市	35	大 住		箱根町	12	足柄上	仙石原 宮城野 芦野湯
			上和田 下和田 福田 深見 上草柳 下草柳 下鶴間	足柄下	2	足柄下	湯本 湯本茶屋 須雲川 畑宿 箱根宿 底倉 大平台 塔之沢 元箱根
			上糟屋 下糟屋 東富岡 西富岡 粟久保 高森 石田 見附島 下落合 小福業 上谷 下谷 沼目 上平岡 下平岡 伊勢原 田中 大竹 板戸 馬渡 大句 善波 串橋 笠窪 白根 神戸 栗原 坪之内 三之宮 上子安 下子安 大山 日向 池端 坂本	真鶴町	7	足柄下	岩 真鶴
			本郷 上河内 中河内 杉窪 大谷 河原口 園分 今里 上郷 中野 中新田 杜家 門沢橋 上今泉 下今泉 柏ヶ谷 望地	湯河原町	7	足柄下	福浦 土肥吉浜 土肥鍛冶屋 土肥門川 土肥堀之内 土肥宮上 土肥宮下
海老名市	17	高 座		城山町	5	津久井	上中沢 下中沢 上川尻 下川尻 業山嶋
				津久井町	13	津久井	青根 鳥屋 青野原 中野 青山 三ヶ木 又野 太井 上長竹 下長竹 根小屋 三井 小倉
				相模湖町	5	津久井	千木良 若槻 寸沢嵐 与瀬 小原宿
				藤野町	8	津久井	吉野宿 沢井 佐野川 小淵 名倉 日連 牧野 関野宿

現行市町村別旧村一覽 (昭和55年2月1日現在)

(注)『新編相模国風土記稿』、『新編武蔵風土記稿』、『旧高田領取調帳』による。

市町村名	旧町村数	旧郡名	旧 町 村 名	市町村名	旧町村数	旧郡名	旧 町 村 名
横浜市 鶴見区	15	橘 樹	胸岡 上末吉 下末吉 鶴見 生麦 獅子ヶ谷 東寺尾 馬場北寺尾 市場 菅沢 矢向 江ヶ崎 小野新田 潮田	川崎市 川崎区	15	橘 樹	小土呂町 砂子町 新宿町 久根崎町 下新田 渡田 小田 大島 池上新田 堀之内 大師河原 川中島 稲荻新田 中島 田辺新田
神奈川区	17	橘 樹	神奈川町 青木町 三ヶ沢 松本 沢渡 西寺尾 三枚橋 菓子安 西子安 神奈川町耕地 白旗 片倉 下菅田 神大寺 羽沢 六角橋 新宿	幸 区	10	橘 樹	鹿島田 南加瀬 北加瀬 南河原 戸手 小向 吉川 小倉 塚越 下平間
西 区	6	橘 樹	芝生 岡野新田 藤江新田	中原区	12	橘 樹	井田 今井 宮内 小杉 上平間 上丸子 中丸子 苜宿 木月 上小田中 下小田中 市ノ坪 新城
中 区	6	久良岐	戸部 尾張屋新田 平沼新田	高津区	29	橘 樹	上菅生 下菅生 五段田 長尾 上作延 下作延 久地 溝ノ口 二子 久本 永長 平土橋 馬組 有馬 梶ヶ谷 久末 清沢 上野田 下野川 子母口 明津 蟹ヶ谷 岩川 新作 坂戸 諏訪河原 北見方
南 区	10	久良岐	中村 堀之内 井土ヶ谷 蒔田 下大岡 中里 弘明寺 別所 永田 引越	多摩区	20	多 摩	中野嶋
港南区	14	久良岐	宮ヶ谷 金井 宮下 吉原 雑色 松本 関 上大岡 最戸 久保			橘 樹	金程 細山 菅 高石 天真寺新田 登戸 宿河原 堰
		鎌 倉	上野庭 下野庭 永谷上 永谷中			都 筑	万福寺 古沢 黒川 栗木 伍力田 片平 上麻生 下麻生 早野 王禅寺 園上
保土ヶ谷区	17	橘 樹	保土ヶ谷町 上岩間町 下岩間町 上神戸町 下神戸町 和田 椎子上町 椎子町 下星川 坂本 仏向	横須賀市	43	三 浦	浦ノ郷 芦名 秋谷 佐島 長坂 藪野 林 大田和 須軽谷 長井 長沢 津久井 武 衣笠 大矢部 小矢部 岩戸 久里浜 久村 内川新田 東浦賀 西浦賀 西浦賀分郷 公郷 金谷 深田 中里 不入斗 上平作 下平作 池上 田浦 船越新田 長浦 横須賀 逸見 佐野 大津 走水 鴨居 森崎 佐原 野比
旭 区	18	都 筑	今井 今井新田 川島 上星川 新井新田 上菅田			海 鏡	山下 高根 万田 出縄
		都 筑	市野沢 今宿 鶴ヶ峰新田 白根 小高新田 岡津新田 本宿 二俣川 三段田 密経新田 川井 上井井 下井井 坂倉新田 膳部谷 糠ヶ谷 二又川 川島	平塚市	56	大 住	八幡 田村 四之宮 下島 大神 吉際 馬入 須賀 豊田本郷 宮下 小嶋 平等寺 大島 小嶋島 打間木 新土 西海地 城所 上入山瀬 下入山瀬 矢崎 大畑 丸島 寺田嶋 北山嶋 入野 飯島 長持 長持入部 中原新田 中原下宿 南原 平塚宿 徳延 平塚新宿 久松 松延 根坂間 河内 公所 上吉沢 下吉沢 千須谷 広川 片岡 土屋 南金日 北金日 大句 馬渡 真田 朝氏
磯子区	13	久良岐	永取沢 滝原 磯子 岡 森公田 森雑色 森中原 杉田 峯 中里 矢野 栗木 田中	鎌倉市	35	鎌 倉	山之内 雷下 大町 小町 扇ヶ谷 二階堂 西御門 十二所 浄妙寺 材木座 乱橋 長谷 坂之下 極楽寺 峠 山崎 台 小袋谷 大船 岩瀬 今泉 城隈 関谷 榎木 岡本 上野谷 寺分 梶原 谷合四ヶ村 常葉 津 腰越 手広 笹田 山谷新田
金沢区	14	久良岐	社家分 寺分 平分 洲崎 泥亀新田 町屋 谷津 柴富岡 宿 坂本 赤井 寺前 野島			高 座	藤沢宿 大久保町 坂戸町 稲荷 大庭 石川 今田 亀井野 西俣野 鶴沼 羽島 辻堂 遠藤 葛原 打戻 熊郷 宮原 用田 円行 富澤沢 下土棚 長七 七ッ木 千栗
港北区	27	橘 樹	矢上 上助林 中助林 下助林 駒ヶ橋 北綱島 箕輪 小机 南綱島 大曾根 樽師岡 大戸野 菊名 太尾 篠原 岸根 島山			鎌 倉	高谷 小塚 宮ノ前 弥留寺 大淵 栢沢 渡内 片瀬 川名 江島 西 狐脚町
		都 筑	新羽 高田 牛久保 山田 茅ヶ崎 勝田 大棚 大棚下 山田 吉田	藤沢市	36	足柄上	下大井 鬼柳 栢山 曾比 上曾我 曾我大沢 新宿町 万町 高梨町 宮前町 本町 中宿町 山角町 茶畑町 欄干橋町 筋違橋町 代官町 千度小路 古新宿町 青物町 台宿町 一町田町 大工町 須藤町 竹花町 小田原城(待屋敷)
緑 区	36	都 筑	猿山 中根 下台 青砥 西八朔 十日市場 北八朔 本郷 川向 東方 折本 大鷲 池辺 佐江川 思田 黒須田 上谷本 下谷本 寺山 鴨居 川和 荏田 上鉄 中鉄 下鉄 市ヶ尾 石川 奈良 小山 成合 寺家 鴨志田 長津田 大場 久保	小田原市	93	足柄下	
戸塚区	39	鎌 倉	笠間 長沼 上倉田 下倉田 戸塚宿 吉田町 矢部町 上之 鎌治ヶ谷 中之 小菅ヶ谷 公田 桂 舞岡 上柏尾 下柏尾 平戸 前山田 後山田 品濃 秋葉 名瀬 上矢部 中田 和泉 岡津 上飯田 下飯田 長尾台 飯島 金井 小雀 田谷 原宿 深谷 汲沢 東俣野 上俣野 山谷新田			鎌 倉	
瀬谷区	4	鎌 倉	宮沢 阿久和 瀬谷 瀬谷新田			鎌 倉	

年号	継続年	天皇	年号	継続年	天皇	年号	継続年	天皇	
暦仁	1238~1239	後醍醐	正慶	1332~1334	光 厳	元龜	1570~1573	正親町	
延応	1239~1240		建武	1334~1338		天正	1573~1592	後陽成	
仁治	1240~1243		暦応	1338~1342	光 明	文祿	1592~1596		
寛元	1243~1246		康永	1342~1345		崇 光	慶長	1596~1615	後水尾
宝治	1247~1249		貞和	1345~1350	元和		1615~1624		
建長	1249~1256		後深草	観応	1350~1352	寛永	1624~1644	明 正 後光明	
康元	1256~1257		文和	1352~1356	後光厳	正保	1644~1648		
正嘉	1257~1259		龜山	延文		1356~1361	慶安	1648~1652	
正元	1259~1260			康安	1361~1362	後円融	承応	1652~1655	後 西
文応	1260~1261			貞治	1362~1368		御門	明暦	
弘長	1261~1264	応安		1368~1375	後小松 (~1412)	万治		1658~1661	
文永	1264~1275	後宇多		永和		1375~1379	寛文	1661~1673	靈 元
建治	1275~1278	伏 見		康暦	1379~1381	延宝	1673~1681		
弘安	1278~1288	後伏見		永徳	1381~1384	天和	1681~1684		
正応	1288~1293			嘉慶	1384~1387	称 光	貞享	1684~1688	東 山
永仁	1293~1299	康応		1387~1389	(1392合一)		元禄	1688~1704	
正安	1299~1302	後二条		明德		1389~1394	宝永	1704~1711	中御門
乾元	1302~1303	花園			享保	1716~1736			
嘉元	1303~1306		応永	1394~1428	後花園	元文	1736~1741	桜 町	
徳治	1306~1308		正長	1428~1429		後土 御門	寛保		1741~1744
延慶	1308~1311		永享	1429~1441	後柏原		延享	1744~1748	桃 園
応長	1311~1312		嘉吉	1441~1444		後奈良	寛延	1748~1751	
正和	1312~1317		文安	1444~1449	後奈良		宝暦	1754~1764	後桜町
文保	1317~1319		宝徳	1449~1452		天明	明和	1761~1772	
元応	1319~1321		亨徳	1452~1455	寛政		安永	1776~1781	後桃園
元亨	1321~1324		後醍醐	康正		1455~1457	天明	1781~1789	
正中	1324~1326		後村上	長禄	1457~1460	光 格	享和	1801~1804	
嘉暦	1326~1329	寛正		1460~1466	仁 孝		文化	1804~1810	
元徳	1329~1331	文正		1466~1467		孝 明	文政	1810~1818	
元弘	1331~1334	応仁		1467~1469	明 治		天保	1818~1844	
建武	1334~1336	文明		1469~1487		大 正	弘化	1844~1848	
(南 朝)		長享		1487~1489	明 治		嘉永	1848~1854	
延元	1339~1340	延徳		1489~1492		孝 明	安政	1854~1860	
興国	1340~1346	明応		1492~1501	大 正		万延	1860~1861	
正平	1346~1370	文龜		1501~1504		大 正	文久	1861~1864	
建徳	1370~1372	長 慶		永正	1504~1521		元治	1864~1865	
文中	1372~1375	後龜山	大永	1521~1528	大 正	慶応	1865~1868		
天授	1375~1381		享禄	1528~1532		大 正	明治	1868~1912	
弘和	1381~1384		天文	1532~1555	大 正		大正	1912~1926	
元中	1384~1392		弘治	1555~1558		大 正	昭和	1926~	
(北 朝)			永禄	1558~1570	大 正				
元徳	1329~1332(1331~)								